＜競馬担当各位＞

２０２６年１１月１３日
Ｊ　Ｒ　Ａ　報　道　室

マイルチャンピオンシップ 出走予定外国馬プロフィール

➢ エルデナリ（ＥＲＤＥＮＡＬＩ）＝ フランス

せん3歳・芦毛（フランス産・2023年3月12日生まれ）
父：カラヴァッジオ　＝　母：Erdana（母の父：Sea The Stars）
馬　主　　：　アガ・カーン・スタッズSC
調教師　　：　フランシスアンリ・グラファール
騎　手　　：　ミカエル・バルザローナ
戦　績　　：　全5戦4勝、3着1回
総獲得賞金　：　約9,610万円
主な戦績　　：　’26 ムーランドロンシャン賞（G1）1着

エルデナリはアガ・カーン・スタッズが生産所有し、フランシスアンリ・グラファール調教師が管理する3歳の芦毛馬です。父は現役時に愛フェニックスステークス、コモンウェルスカップと1,200mのG1を2勝したカラヴァッジオ（その父スキャットダディ）。種牡馬に転じてからはジャンプラ賞などG1・2勝のテネブリズム、コロネーションステークス等4つのG1を制したポータフォーチュナ、ダイアナステークス2度優勝のホワイトビームなど欧米でG1馬を輩出し、2023年より日本で供用されています。

母のエルダナ（父シーザスターズ）はフランスで3戦して未勝利のまま繁殖に上がり、エルデナリはその第1仔となります。祖母のエルヴェディアは仏1000ギニー、コロネーションステークス、ムーランドロンシャン賞でG1・3勝の名牝。その産駒で母の半弟にあたるエレヴァン（父ドバウィ）はG2ダニエルウィルデンシュタイン賞などで重賞2勝を挙げ、マイルG1のジャックルマロワ賞で3着に好走しています。また、祖母の半妹エライヤ（父シユーニ）は繁殖牝馬として輸入され、ノーザンファームで供用中です。

競走馬としてのキャリアを歩むべく調教を開始されたエルデナリでしたが、当初は気性が激しかったため陣営は2歳の早い時点で去勢を決断、その後も調整は順調に進まず、デビューは今年3月29日のサンクルー競馬場での新馬戦（牡馬・せん馬限定、芝1,600m）となりました。アガ・カーン・スタッズの主戦ミカエル・バルザローナ騎手を背に1番人気に推されると、中団後方から騎手が手綱を持ったままの手応えで残り200mで抜け出し、後続を6馬身半突き放しました。重馬場の勝ちタイムは1分45秒6と遅いものでしたが、上がりは他馬より1.2秒以上速い34秒97でした。

次いで5月7日のクラス1戦（パリロンシャン、芝1,600m）も断然の支持を受け、4番手から徐々にポジションを上げると、上がり最速の33秒76で差し切って、リステッド競走勝ちの実績があった2着ゴーマンに2馬身の差をつけました。重馬場の勝ち時計は1分46秒2。続く6月27日のリステッド競走、サンパトリック賞（ドーヴィル、AW1,500m）も5～6番手の位置取りから、直線では内を良く伸びて2馬身半差で快勝、人気に応えました。そして3週後の7月19日、重賞初挑戦となったメシドール賞（シャンティイ、G3、芝1,600m）は、初の年長馬との対戦でしたがここでも1番人気に推され、ラチ沿いの5番手で直線へ。しかし、なかなか前が開かず、残り100mでようやく進路を見つけて一気に加速しましたが、勝馬からクビ+短クビ差の3着に追い上げるのが精一杯でした。

こうして迎えたG1の舞台、9月6日のムーランドロンシャン賞（パリロンシャン、芝1,600m）は、ともにG1馬のグシュタード、オペラバッロに次ぐ3番人気での発走となりました。7頭立ての5番手でレースを進

め、直線入り口でわずかに外に持ち出されて進路を確保すると、さらに外のテンボブトニーと併せる形で自慢の末脚（上がり 33.0 秒）を繰り出して残り 200m で先頭へ。追いすがるクイーンアンステークス優勝馬のテンボブトニーをじわじわと引き離して、最後は 1 馬身 1/4 の差をつけて初の G1 タイトルを飾りました。稍重馬場の勝ちタイム 1 分 33 秒 01 は従来の記録を大幅に上回るコースレコードとなりました。

凱旋門賞前日に行われるアルカナ社アークセールに上場される可能性もあったエルデナリでしたが、G1 ウイナーとなったことで引き続きアガ・カーン・スタッズの所有馬として現役を続けることになりました。陣営はエルデナリの次走として、同じ馬主・厩舎のライフが出走予定だった 10 月 17 日のクイーンエリザベス II 世ステークスの代わりに当初はアメリカのブリーダーズカップマイルを目標に現地で前哨戦を使うプランを検討していましたが、マイルチャンピオンシップへ矛先を向けました。

通算成績は 5 戦 4 勝、3 着 1 回。芝の 1,600m の持ち時計はムーランドロンシャン賞優勝時の 1 分 33 秒 0 で、その時のレーティング 124 は最新のワールドベストレースホースランキングで世界 14 位タイ、芝のマイル区分ではボウエコー（127）、グシュタード、ノータブルスピーチ（ともに 125）に次ぐ 4 番目の評価です。

＜競馬担当各位＞

２０２６年１１月１３日

Ｊ　Ｒ　Ａ　報　道　室

マイルチャンピオンシップ 出走予定外国馬関係者プロフィール

➢ エルデナリ（ＥＲＤＥＮＡＬＩ）

• 馬主：アガ・カーン・スタッズＳＣ（Aga Khan Studs SC）

本馬はアガ・カーン VI 世殿下の所有馬として競走馬のキャリアをスタートさせましたが、同殿下が昨年2月に逝去されたことに伴い、アガ・カーン・スタッズに名義が変わりました。故アガ・カーンVI世は1936年にスイスのジュネーブで生まれ、イスラム教シーア派の一派であるイスマーイール派の第 49 代イマーム（指導者）として、世界各国で政治的に中立な立場で、貧困の緩和、多元主義とジェンダー平等の促進、そして環境保護などに取り組みました。

祖父の代から大きな成功を収めていた競馬事業を父から引き継ぐと、自身も世界的なオーナーブリーダーとして名を馳せ、自身や長女のザラ王女の名義で制した G1 は 180 以上に上ります。ブラッシンググルームやシャーガーなどの歴史的名馬をはじめ、2000 年代に入ってからも凱旋門賞馬のシンダー、ダラカニやザルカヴァ、種牡馬として活躍するシユーニ、英愛ダービー馬のハーザンド、仏ダービー馬のヴァデニなど数多くの G1 馬を競馬界に送り出しました。今年も本馬の他に、カランダガンがドバイシーマクラシックとサンクルー大賞、ライフが仏 2000 ギニーとジャックルマロワ賞、サマンガンがモーリスドゲスト賞、ダリズがガネー賞、アガ・カーン IV 世賞（イスパーン賞）、そして昨年に続いて凱旋門賞を制しています。

これまで故アガ・カーンVI世殿下名義の馬では、アスタラバドが1997年ジャパンカップで6着、シャラナヤが 2009 年エリザベス女王杯で 4 着、シャレータが 2011 年ジャパンカップで 7 着、アガ・カーン・スタッズ名義ではカランダガンが昨年のジャパンカップを勝利しました。

• 調教師：フランシスアンリ・グラファール（Francis-Henri Graffard）

1977 年 4 月 27 日生まれ、パリ南東のシャロレー＝ブリオネ地方出身。調教師になるため、アイルランドのジョン・オックス厩舎やフランスのジュアン・ベルトラン・ド・バランダ厩舎のほか、フランスのアルカナ社系列のセリ会社ゴフスなどで経験を積みました。また、人材養成プログラム「ダーレー・フライング・スタート」の一期生として、フランスのアンドレ・ファーブル厩舎やオーストラリアのゲイ・ウォーターハウス厩舎でも学び、調教師になる前の 3 年は自国の大御所アラン・ドゥロワイエデュプレ厩舎でアシスタントを務めました。

2011 年秋にシャンティイ調教場のラモルレイ地区に厩舎を開業し、最初のシーズンとなった翌2012 年はパールフルートでシェヌ賞（G3）を制して重賞初勝利を飾るなど 158 戦 24 勝で、獲得賞金順のリーディング 61 位。2015 年以降はリーディング 15 位以内を維持し、昨年は 2 位の倍近い獲得賞金で念願の初リーディングに輝きました。初の G1 タイトルはイラプトで制した 2015 年のパリ大賞で、以降の主な管理馬にチャンネル（2019 年仏オークス）、インスウープ（2020 年独ダービー）、ザレヴナント（2020 年クイーンエリザベス II 世ステークス）、ルーヒヤ（2024 年仏 1000 ギニー）、ゴリアット（2024 年キングジョージ VI 世&クイーンエリザベスステークス、2025 年バーデン大賞など）、ザリガナ（2025 年仏 1000 ギニー）、ゲゾラ（2025 年仏オークス、ブリーダーズカップフィリー&メアターフ）、カランダガン（2025 年サンクルー大賞、キングジョージ VI 世&クイーンエリザベスステークス、英チャンピオンステークスなど）、ダリズ（2025 年凱旋門賞など）がいます。

今年はフランス国内で本馬の他にダリズがガネー賞、アガ・カーン IV 世賞（イスパーン賞）、凱旋門賞、ライフが仏 2000 ギニー、ジャックルマロワ賞、カランダガンがサンクルー大賞、サマンガンがモーリスドゲスト賞、アミュージングリーがジャンリュックラガルデール賞を制するなど、11 月 9 日時点で 613 戦 180 勝、獲得賞金 10,259,522 ユーロで 2 年連続のリーディングタイトルが確定的となっています。国外でもカランダガンでドバイシーマクラシック、ゴリアットでオイロパ賞と 2 つの G1 勝鞍があります。

これまでの日本での管理馬出走はいずれもジャパンカップで、イラプトが 2015 年 6 着、2016 年 14 着、ゴリアットが 2024 年 6 着、そして昨年のカランダガンで優勝を果たし、日本初勝利を挙げました。

- **騎手：ミカエル・バルザローナ（Mickaël Barzalona）**

1991 年 8 月 3 日生まれ、フランス南東部のアヴィニョン出身。コルシカ島の元調教師のクリスチャン・バルザローナの孫、元平地・障害騎手のアルマン・バルザローナの甥にあたります。モンドマルサンにある AFASEC 競馬学校に進み、2008 年にフランスで騎手免許を取得すると、アンドレ・ファーブル厩舎の見習として翌年に 72 勝を挙げてリーディング 11 位と一気に頭角を現します。2011 年 5 月にウェイヴァリングでサンタラリ賞を制して初 G1 勝利を飾り、さらに翌月の英ダービーをプールモアで優勝。1981 年のウォルター・スウィンバーン（シャーガー）以来となる 10 代騎手による英ダービー制覇となりました。

2012 年にゴドルフィンと優先騎乗契約を結ぶと、最初の 2 年はイギリスを拠点に、2014 年からはフランスに戻り、その所有馬で国内外の G1 タイトルを手中に収めていきました。主なものに 2012 年ドバイワールドカップ（モンテロッソ）、英セントレジャー（エンケ）、2017 年ブリーダーズカップターフ（タリスマニック）、2019 年仏 1000 ギニー（キャッスルレディ）、2020 年仏 2000 ギニー（ヴィクタールドラム）、2024 年ムーランドロンシャン賞（トリバリスト）があります。2017 年以降はフランスのリーディングで 4 位以内を維持し、2021 年に 192 勝で初めてトップに立ちました。昨年から主戦を務めるアガ・カーン・スタッズの所有馬では、その初年からザリガナで仏 1000 ギニー、カランダガンでサンクルー大賞、キングジョージ VI 世&クイーンエリザベスステークス、英チャンピオンステークスなど、シバヤンでオイロパ賞、ダリズで凱旋門賞を制するなど大活躍を見せました。

今年も本馬やダリズ、ライフ、カランダガン、サマンガン以外でも、フェアリーグレンでロワ

イヤリュー賞を勝つなどフランス国内でG1を9勝、3月から10月の成績で競われる平地リーディングでは719戦176勝で、2021年以来2度目の首位でした。国外でもカランダガンでドバイシーマクラシックを制しています。

日本では昨年のジャパンカップウィーク以外でも2013、2014、2016年に短期免許を取得して騎乗しており、ここまでJRA通算237戦22勝。重賞勝鞍に2013年朝日チャレンジカップ（アルキメデス）、2014年福島記念（ミトラ）、2016年京阪杯（ネロ）、そして昨年のジャパンカップ（カランダガン）があります。